

【エッセイ部門・奨励賞】

おわすれものはございませんか。

兵庫県立小野高等学校 第3学年 池町美花

ちょっとそこのあなた、そう、あなたです。お尋ねしたいのですが、忘れ物をしたことはありますか。もしくは、忘れ者になったこと、ありますか？

多いのか少ないのかは分からないが、私はある。忘れ者になったことが。何度も。

まず記憶に新しいのは「表彰状置きっぱなし事件」だ。なんと、私に渡されるはずの表彰状を、担任の先生が自分の机に数ヶ月間置きっぱなしにしていたのだ。よくある筒に入っていたため、目立たず、周りの景色に馴染んでしまっていたのだろう。それにしても数ヶ月とはすごいものだ。筒の前世はきっと優秀な忍者だったのだろう。まあ、受賞の事実は知っていたし、おかしいとは思っていた。いくらなんでも表彰状が遅すぎやしないか、と。だが、まさか忘れられていたとは。悲しい、いや、面白い。

しかし、この事件はまだ終わりではない。帰宅して、筒から表彰状を取り出すと、なんとなんと、学校名が違っているではないか。それも、とあるお嬢様学校の名前。みなさんご存知の通り、私が通っているのはど田舎の高校で、私はど田舎生まれど田舎育ちのいわゆるいなかつぱだ。そんな奴が突然お嬢様学校に転校だなんて、笑うしかない。もちろん勝手に転校させられていたわけではなく、単なるミスなのだが、表彰状一枚でこんなにも話が広がるなんて、この世は素晴らしいと思わざるを得ない。

続いては、「存在忘れられてる事件」だ。これに関しては、忘れられているというよりも、認識されていないというほうが正しいかもしれない。

私は学校帰りに、自習室がある地元の教育センターに入った。コロナ禍ということもあり、入り口には顔の表面温度を計る非接触体温計が設置されていた。なんということだ、全く反応しないではないか。見かねた職員さんに、「マスク外して」とか「メガネ外して」とか言われたのでその通りにした。ダメだ、全然ダメだ。

「近づいてください」だの「顔をフレームに合わせてください」だの、体温計の要求にも利口に従ってやっているというのに、全く反応しない。相当表面温度が低かったならまだしも、そこそこの距離を歩いて汗ばんでいたくらいだから、決して低くはなかったはず。もしや体温計に弄ばれていたのだろうか。もともと他人からナメられやすい人間ではあったが、まさか体温計にまで……。結局、職員さんが諦めて、体温は不明だったが入館できた。大人しく勉強をしていたら、誰かが入館してきた。「ピコンッ」という音がした。体温計、お前はそんな声だったのか。私には頑なに反応しなかったアイツが、秒で反応していたのだ。ピコンッかポロリンッか正確な音は忘れたが、私以外の入館者にはすぐに反応しているようだった。憎い奴だ。

ちなみに、学校にも同じような体温計があるのだが、そいつからの反応も悪い。反応しな

いときもしばしばあれば、反応しても体温が低すぎて、「表面温度異常」とほざいてくる。寒い日で本当に体温が低かったならいいが、そうでもない日もあったはずだからやはり信用はできない。いつから私は、この世の非接触体温計を敵に回してしまったのだろうか。もしかして私の前世は別の種類の体温計だったのか。いや、例の筒と同じく忍者だったのかもしれない。どちらにせよ、体温計の仕事は体温を測ることなのだから、きちんと職務を全うして頂きたいものだ。

あと、ある先生の授業でも存在を認識されていないことがあった。最近はマシになってきたのだが、一年生の頃は酷かった。問題に答えるということで、前の席から順番に当てられていたのに、私の前の子で止まった。しばらくして再開したと思ったら、後ろの子から当てられたのだ。え、いや、別に構わんが、なぜだ。怠慢な態度などってはいない。超真面目に授業を受けていた。こんなことが一度ならまだしも、何度かあったのだ。だいたいの子は数回授業があれば一回は当たっていたが、私は数ヶ月に一度。それも、油断しているときに限って当てられる。偶然か、必然か、一体どういうことなのか。

最後にちょこっと番外編。忘れられることも多いが、間違えられることも多い。中学生のとき、友達に運動靴を間違えて履いて帰られたことがあった。記憶が定かではないが、たぶん二週連続だったなあ。確か、サイズも履き心地も全然違っていた気がするんだけどなあ。

それでは自分の話はこら辺にして。もう一度お聞きします。みなさん、おわすれものはございませんか。